

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270101761		
法人名	医療法人 社団 春秋会		
事業所名	二本松養生所		
所在地	長崎県長崎市戸町2丁目177番地28号		
自己評価作成日	令和4年2月21日	外部評価結果確定日	令和5年4月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今年度は新型コロナウイルスの影響で地域との交流や企画・地域行事・1階のデイサービス合同の行事等が極端に少なくフロアで過ごす事が多かった。しかし、フロアでの入居者様の運動と脳賦活は充実をしていきました。今年はエルゴメーターや風景と音楽のDVD鑑賞など、飽きさせない様に心掛けております。業務日誌がタブレットに変わり、その他の紙媒体を1つにまとめたりペーパーレスにも力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/koreisha/kaigo-kouhyou/service-kouhyou/">https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/koreisha/kaigo-kouhyou/service-kouhyou/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和5年3月28日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

高台の住宅地にあり、眼下に海を見晴らすことのできる施設は開放感にあふれている。道をはさんだ公園からは子どもたちの遊ぶ声が聞こえる。開設よりほぼ20年となり、地域との交流も長いものとなっている。入居者様の介護度が上がるにつれ、コミュニケーションを取るのがむずかしくなっているが、まずはいいいに声かけをするようにしている。認知症の症状に合わせて適格な言葉選びをするようにし、視覚、聴覚も含めてどのようにすれば伝えやすくなるか、管理者・リーダーの高いティーチングスキルによりスタッフへの周知がされている。医療法人が運営母体であるため、協力医療機関の医師の訪問診療、訪問看護、心療内科医の訪問診察等充実した医療体制が整っており、連携を密に取りながら最終的には医療機関となるが、家族の意向を踏まえながらギリギリまで可能な限りの終末期支援も行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たに理念を職員で考え、それをフロアに入る見やすい場所に理念を掲げており、朝礼で唱和を実施している	デイサービスを含めた二本松事業所の理念が新たに考えられ、母体である医療法人、グループホームを合わせ理念が3つある。主にミーティングや日誌の中で、日々のサービスの提供場面での気づきを振り返り、常に理念の反映がされている。	グループホームの理念は、入居者様に向き合う姿勢、介助等支援のあるべき姿を表すものとして、より日々の支援の意識づけにつながるように、新たなグループホームの理念作成を検討しているとのことであった。現在の、入居者様に寄り添ったきめ細かな支援を表す理念の作成が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(市民大清掃やウオーラリー等)にも積極的に参加している。(今年度は実施等が無かった)事業所の定期新聞に自治会の行事掲載依頼があり、毎月実施をしている。	事業所会報誌「ぼかぼか新聞」を自治会掲示板と回覧板に掲載をお願いし、施設の周知、理解を深めてもらうようにしている。コロナ以前はもちつき大会や夏祭りなど地域に解放し、自治会や子ども会など施設を利用してもらっていた。タイミングをみて以前同様に行きたいとのことであった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市や県主催の講義やグループホーム連絡協議会の勉強会に出席し、自己研磨に心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のご家族(毎回最低1家族)・地域住民にサービス状況やインシデントレポートを報告し、ご家族・地域住民からの意見、報告を伺っている。職員による約10分の発表をし、職員のスキルアップと地域住民への色々な開示を実施している。今年度は書面での会議で実施。	双方向的な会議となるよう、スタッフが認知症、医療についてのテーマでミニ講座を実施している。スタッフの顔も覚えてもらうように全員に振り分けしている。会議へのご家族様出席は持ち回りとし、運営推進会議議事録は全家族、自治会長、長崎市へ配布をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への書類提出時などを利用。連絡や質問を実施し、常に意見交換・質問ができる様に努めている。	玄関と道路の距離が近いことやむを得ず施錠をしているが、市役所に相談・確認しており事業所の実情を伝えるようにしている。長崎県からは、認知症講師研修の案内が来るなど情報交換や連携体制が取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない様に全職員が心掛けている。居室は日勤帯は開錠している。玄関はすぐ前に道路があり、事故の恐れより施錠を実施している。市役所には確認済。	2年前より法人で各委員会の活性化、組織化を図っており、リスクマネジメント委員会から担当者によりグループホームへフィードバックされる形になっている。IT化によるシステムから身体拘束についての動画をみてもらいテスト形式での回答で周知を確認している。日々の生活支援の中での線引きは現場では中々むずかしい部分もあるが共通認識を持つことができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にて委員会を通じ虐待防止の勉強会を実施。スタッフの理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の勉強会等にて権利擁護の理解と必要性を意識するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、契約書・重要事項説明書を用いて説明を行っている。入所後はご家族の来所の際に、最近の状況報告を行い、話しやすい環境作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から質問があった場合はその場で回答と説明をし、今後の対応策まで提示している。その場での回答が無理な場合は一旦質問を預かり、後日にご家族で電話等の方法で回答を実施している。	法人全体でのサービス委員会より文書による満足度調査を行い、入居者様・ご家族様の率直な意見を聞くことができた。担当者がグループホームに入居者様ごとの要望をフィードバックしている。また、直接意見を聞く機会となるよう運営推進会議への家族会出席は持ち回りとなるようしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のミーティングの1週間前に課題を出して貰い、優先順位の高い順に解決をしている。全員提出の月を設けたり、職員全員が意見を言える様に無記名で提出等、環境作りに心掛けている。	スタッフ全員から、気づきなどによる提案があれば出してもらうようにしている。提案内容は、入居者様に関して、業務内容改善など多岐にわたる。課題のみでなく、解決策までの提案まで出してもらい、事前に周知し、ミーティングで話し合っている。業務上参加できない人もいるので、議題と決定事項のみでなく、プロセスも理解してもらうようにし、若いスタッフの気づきの場にもなるよう活用されている。実施後、1ヵ月後のミーティングで再検討し、PDCAを行い、建設的なものとなっている。若いスタッフも積極的に意見を出せるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とは別に、人事担当にて資格取得の促進及び労働状況の確認を面談等で図っており、向上心を持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では様々な委員会が発足し、その中で教育委員会があり、現在、現任と新人教育の見直しを毎年、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の定例会や、理事会、介護福祉士会時に同業者との交流を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、情報提供書等を基に本人及び家族の意見を照合している。入所後も日々の日誌やミーティング内で利用者の様子や意見を共有し良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に担当者会議を開催し、本人様とは別にご家族から要望を聞く時間を設け、職員に伝達し、結果をご家族へ連絡をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族のライフビューの情報を担当者会議以外でも聞き取り、サービス提供に盛り込むように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が何に興味があるか、何が出来たかを日頃の会話や表情から読み取り、その人その人の出来る事を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時に職員より日頃の状況報告を実施。現在の問題点も提示し、解決の糸口をご家族より貰っている。更に月末に電話にて1か月の状況報告をし、その時にも要望を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問理髪はあるが、在宅時に通っていた床屋に通っている方もいる。なじみのお店への買い物支援はコロナ感染防止にて今年度は実施できていないが、今後は再開する予定。	車椅子で自走できる方などは、なじみの美容室、買い物に行くなど、外部の人とも話をしたり、コミュニケーションが取れるように支援している。外出のあとは、表情も変わるとのことである。ご家族様との食事会がいちばん喜ばれるので、折を見てコロナ以前のように実現していくとのことであった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一応の席は決めているが、その場その場で談話出来る状況を作っている。職員が談話の架け橋となる事も心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や長期入院・亡くなられた方のご家族について近況状況を把握し、要望があった際に対応がいつでも出来る状況に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の担当者会議でライフビューを聞き取り、認知症の進行で困難な場合はご家族の要望を聞いたりしてその方の合った暮らし作りを実施している。入所後に身体レベルが下がらない様に運動と脳賦活に分けて毎日の取り組みを実施	入居者様からは、日頃から声かけをして思いや意向を聴取し、ご家族様はキーパーソンになる方から聞き取りやアンケートにより意見をもらっている。声に出すことができない入居者様からは、表情、目の動きにより把握している。テーブルに一人で座りたい方には一人で座ってもらい、今までの生活の延長としての晩酌(ノンアルコール)を嗜んでいる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者会議時にキーパーソン以外のご家族よりライフビューを伺い、情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕方(検温は朝・昼・夕)に身体観察とバイタルチェックを行いケアパレットに打ち込みを実施。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の来所時や家族会時にケアプランの説明を実施し、要望を聞き取り、介護計画作成時に反映している。1回/月の養生所ミーティングで見直しも実施。モニタリングも1回/3か月実施している。	3ヶ月毎にケアマネが作成した介護計画をスタッフミーティングで見直し、ご家族様に確認してもらい承認を得ている。必要であれば主治医、医療リハビリから意見をもらっている。介護度が低い入居者様には、自転車漕ぎ、ぬりえやパズルなどの支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアパレットに個別記録は毎日実施。1回/月のミーティングで気づきや工夫を取り上げ実施している。職員のスキルに差がある場合は個別で指導を行い、スキルの誤差を埋めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況よってのニーズに対して、法人内の医療関係に依頼し、機能低下予防を務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の好物や日用品を近隣のスーパーや量販店で買い物に出向いたり、目の前の公園へ散歩に出掛け、楽しめる環境作りに努めている(今年度は実施が困難であったが今後は再開する予定)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の契約時に現在継続している医療機関を伺い、更に要望も聞き、相談した上で決定している。必要な医療機関が出てきた場合はご家族へ相談をし、適切な医療の支援を実施。	かかりつけ医の変更は強制しないが家族負担を考え往診する協力医を薦めている。内科、心療内科、歯科は定期的に往診している。同法人の訪問看護と契約し、医療連携シートでヒヤリングしバイタルチェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が1回/週に来所しており、状況報告は随時行っている。突発的な際でも24時間電話対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリーを作成し、情報交換を実施している。入院先に出向いた際には、看護師や連携室へ行き、退院のメドや現状把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針説明を行っている。同意を得た上で終末期の対応や看取りの指針に基づき対応可能に努めている。現在は法人にて統一した書面にて継続的な聞き取りを実施している。	入居時にACP(終末期の医療ケアの希望)を本人とご家族様から調査し、定期的に再調査を行っている。内容としては、緊急時に救急車の要請をするか主治医に連絡するか確認を取っている。事業所では最終段階までの支援を行うが、食事が入らなくなった場合には、医師・ご家族様が来所し今後についての話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所単位や法人単位で勉強会を実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p> <p>また、火災等を未然に防ぐための対策をしている</p>	<p>年に2回避難訓練を実施(昼間と夜間を交互に実施)し、災害時の対応を身につけている。コロナ以前は地域の方の参加も毎回実施していたが、今年度は書面にて開催。3月には消防署の参加にて実施予定。</p>	<p>消防通報システム、スプリンクラー、防災窓などの防災設備が備わっており、日中と夜間用の避難用のフローチャートが作られている。館外放送で近隣に知らせることができ、協力体制もできている。消防署立ち会いのものの訓練を行い、入居者様の移動は、車椅子ではなくシートにくるませ出口まで引く方が早いなど助言をもらった。訓練時には、管理会社による消防設備点検も行っている。</p>	<p>災害時の食料は、法人がまとめて購入し保管するとの案が出ているが、母体の医療機関とは、距離がある。スタッフと入居者様の人数分の非常食と水等を事業所内で確保することを期待する。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り声掛けをする様に指導しているが、その声掛けが正しいかが迷うスタッフの姿もあるがミーティングなどを通じ共通理解に努めている。	必ず声掛けをして入居者様の意思を確認し支援を行っている。「ちょっと待って」を言わざるを得ない状況をミーティングの中で検証し改善につなげる。フロアで申し送りをする時は名前ではなく部屋番号を使い、便りの写真掲載には事前にご家族様より承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が行動してもすぐには声掛けせず見守り、迷っている様子があった際に声掛けをし、助言をしている。 日常会話の中で本人様の思いを少しずつ引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方がしたい時、行きたい時の要望に応える様にしているが、時折『もうちょっと待って下さいね』の声掛けがある。ミーティング等にて支援方法の共有を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えの際にその人らしい服装を確認した上で準備している。意思疎通が難しい場合は同じ服にならない様に配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けの所でお盆拭きをして頂いている。日頃の会話の中で好きな食べ物を伺い、手作りの際に作って提供している。	食事は、ごはん以外は外部委託をしており、入居者様一人ひとりに合わせた食事形態で提供している。委託業者の選定は、バリエーションが多く、ムース食の提供もしている。一対一の食事介助が必要な入居者様が数名いるため、全員一緒に食事ではなく食事時間をずらしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託をしており、栄養バランスが取れた食事を提供している。現在は隔週で手作りを実施。水分量チェック表を活用し、飲水量を記入して、ケアパレットに反映している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。 1週間に1回協力機関の歯科が往診に来るので必要時に相談をし、改善に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄前のトイレ誘導実施して失敗の減少に努めている。入居者によってはWCの声掛けを3HIに1回などその人その人に合わせている。	排泄チェック表を確認しながら、トイレ誘導を行っている。水分摂取が多い時には早めに声掛けをして柔軟に対応している。大半の入居者様は、車椅子でおむつ使用であるため、排泄に失敗したときは居室で排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を日頃から把握し、便形状スケールを用いて職員間での便形状を統一し、下剤調整を行っている。乳製品の提供や個別・集団での運動とリハビリを実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中の中の入浴が主であるが、今後は業務改善などを図り午後や夕方の中の入浴にも取り組みたい	入浴は、週2回で午前中に行い、湯船に入れない入居者様には、シャワー浴で対応している。異性介助に対してはご家族様の同意を得ており、入浴を嫌がる場合は、時間やスタッフの変更、ストレスにならない声掛けを心掛けている。入浴をしない日には、毎朝陰部清拭で清潔に保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のしぐさや表情から倦怠感があれば声掛けをし、居室での臥床促しを実施している。 昼夜逆転しない様に臥床時間は短めで設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜間帯での配薬の際に効能書きを確認。目的や副作用を把握しながらの実施を心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の役割分担を日々実施している。 談話の中から何がしたいか何が楽しいかを分析し、気分転換の声掛けを実施している。 不穏時や天気の良い時には急遽ドライブの対応を実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気温や天候に左右されるが、目の前の公園に散歩に出掛けている。今後は以前実施していた、ご家族の協力の元、外食や宿泊も実施していきたい。	コロナ禍であっても、人が少ない場所を検討し実施している。公園を散策し、すいかを食べたり、シャボン玉をしたりしたとのことである。以前、花見の予定を立て当日雨になったが、中止ではなく再度検討するとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを廃止し、法人が立て替えをしている。毎月の請求書と一緒に領収書も添えて確認をして頂いている。ご本人様希望により、嗜好品購入もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月に年賀状が届いたりしている。事業所への届け物の際には電話連絡をしておりその際に電話で話して頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはTVの音や洗濯機や包丁を使用をする際の生活音があふれている。西日が強い際にはカーテンなどで対応している。あとフロアにはカレンダーや壁画があり、季節感が分かる様になっている。	共有空間は、車椅子移動が十分できる空間が確保され、スタッフが清掃し清潔に保たれている。窓からの見晴らしがよく、季節の移り変わりが目に見えてわかる。誕生会ではケーキを食べ、ひな祭りなどの行事が毎月行われる集いの場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファ、玄関前に長椅子を設置し、独りになれる空間作りを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備品としてベッドとクローゼットのみなので、今まで使用していたタンスや椅子、TVやご家族やご本人の写真等の貼りだしをしている。	居室への持ち込みは、冷蔵庫のみスタッフが中身の確認をするとの条件がある。ご家族様の手作りの小物や写真が飾られ、キーボードが置いてある部屋もある。入居者様が、居心地良く生活できるようご家族様の思いが感じられる居室になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室に表札等を設けており、自身でわかる様にしている。手すりを設置している ので、過介助のならない様に手すり使用の 声掛けを実施している。		